



## V 大会参加費・懇親会費

大会参加費は、正会員・臨時会員ともに 4,000 円、ただし学生会員(臨時会員を含む)は 2,000 円です。また、懇親会費は、正会員・臨時会員ともに 4,500 円、学生会員(臨時会員を含む)は 4,000 円を予定しています。

## VI 昼食

8 月 24 日(木)、25 日(金)ともに、大学生協食堂(川内北キャンパス厚生会館、文系厚生会館)をご利用いただけます。また、大学周辺には、宮城県美術館や仙台市博物館があり、これらの食堂がご利用いただけます。

## VII 自由研究発表

発表時間

○個人研究発表:20 分 その後 10 分の討論時間

○共同研究発表:40 分 その後 20 分の討論時間

・発表者の○印は共同研究における発表者を示すものです。

・発表に必要な資料は、少なくとも 50 部各自ご用意いただき、大会当日にご持参ください。大会当日の会場におけるコピー機・印刷機等の使用はできませんので、御了承下さい。

・発表者がやむを得ない事情により欠席する場合には、発表時間・発表順序の繰り上げは行わず、司会者の判断により、休憩または討論の時間にあてます。

## VII 全国理事会

8 月 23 日(水)の 13 時から全国理事会を開きます。会場は、川内南キャンパス、教育学部(文科系総合研究棟)11 階の中会議室です。

## VIII シンポジウム・特別課題研究についての打ち合わせ

司会と報告者、指定討論者との打ち合わせを次の日時、部屋で行います(昼食を用意いたします。)

①公開シンポジウム:8 月 24 日(木)12:30～

「IT の時代における教育学」

……川内北キャンパス A 棟 A303

「公共政策としての教育政策:新しいパラダイムの構築」……川内北キャンパス A 棟 A304

②特別課題研究:8月25日(金)12:20～

「教育改革の国際比較 ー生涯学習との関連においてー」……川内北キャンパス A 棟 A303

「プロフェッションとしての教員養成に関する総合的研究」…川内北キャンパス A 棟 A304

「変容する青年期に関する総合的研究」 ……川内北キャンパス A 棟 A305

## Ⅷ 大会連絡先

〒980-8576 仙台市青葉区川内 27-1

東北大学大学院教育学研究科教育政策科学講座気付

日本教育学会第65回大会実行委員会

E-mail: jsse@sed.tohoku.ac.jp

## Ⅸ その他

大会当日、名札をつけた実行委員・学生が大会会場のご案内を致します。ご不明な点などがございましたら、遠慮なくお問い合わせ下さい。

## X 大会実行委員会

水原克敏(実行委員長)、大桃敏行(事務局長)、清水禎文(事務局次長)、泉山靖人、小川佳万、梶山雅史、加藤守通、小泉祥一、宮腰英一、後藤武俊、高橋哲

大会の詳細(スケジュール、シンポジウム、会場地図等)は [こちらをご覧ください](#)。

## 教育学会のご案内

- [東北大学川内北キャンパスまでのご案内 \(交通\)](#)
- [大会日程・会場一覧 \(タイムテーブル\)](#)
  - 大会 初日 [8月24日 \(木\)](#)
  - 大会二日目 [8月25日 \(金\)](#)
- ※ [シンポジウム、特別課題研究の内容については、\(タイムテーブル\) をご参照下さい。](#)

## ー東北大学川内北キャンパスまでのご案内ー

### 1. 飛行機を利用してお越しの場合

仙台空港から JR 仙台駅行きの空港リムジンバスが出ておりますので、これにお乗りになり、終点の JR 仙台駅で下車してください。JR 仙台駅から東北大学川内北キャンパスまでは、下記の「JR でお越しの場合」をご参照ください。なお、空港から JR 仙台駅までの所要時間は約 40 分、料金は 910 円となっております。

### 2. JR を利用してお越しの場合

JR 仙台駅に到着されましたら、JR 仙台駅西口（表口）から、ペDESTリアンデッキで、JR 仙台駅西口バスプール 9 番に向かって下さい。

学会大会会場である東北大学川内キャンパスへは、JR 仙台駅西口バスプール 9 番のりばから「宮教大・青葉台」「宮教大・成田山」「宮教大」「動物公園循環」のいずれかに乗車していただき、「扇坂」バス停で下車していただくか、または 16 番のりばから「交通公園・川内（営）」「交通公園循環」のいずれかに乗車していただき、「川内郵便局前」バス停で下車して下さい（次ページ以降に「仙台市営バス時刻表」「大会会場への交通案内」がありますので御参照下さい）。

### 仙台駅周辺地図



仙台市交通局ホームページ (<http://www.kotsu.city.sendai.jp/>) より抜粋

# 仙台市営バス時刻表

(2006年4月1日改正)

## 仙台駅バスプール 9 番のりば時刻表 (東北大学方面)

行き先	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
青葉通・工学部経由 宮教大・青葉台	20 35 45	04 24 50	59		03	03	03	03	03	03	03 23 43	03 33	03 33	03 33
青葉通・工学部経由 宮教大・成田山		16	03	43				23		43				
青葉通・工学部経由 宮教大	30 55	08 12 30 37 57	17 23 33 43 53	23	23 43	23 43	23 43	43	23 43					
青葉通・理・工学部・仙台城跡南 経由 動物公園循環	15 48	00 20 45	20 50	18 53	18 53	18 53	18 53	18 53	18 53	18 53	18 53	18 53	43	43

## 仙台駅バスプール 16 番のりば時刻表 (東北大学方面)

行き先	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
広瀬通・二高県美術館経由 交通公園・川内(営)	25 47	27 47	27 47	27 47	27 47	27 47	27 47	27 47	27 47	27 47	27 47	27 47	07 27 47
広瀬通・二高県美術館・交通公園経由 交通公園循環		07	07	07	07	07	07	07	07	07	07	07	

## 扇坂バス停時刻表 (仙台駅方面)

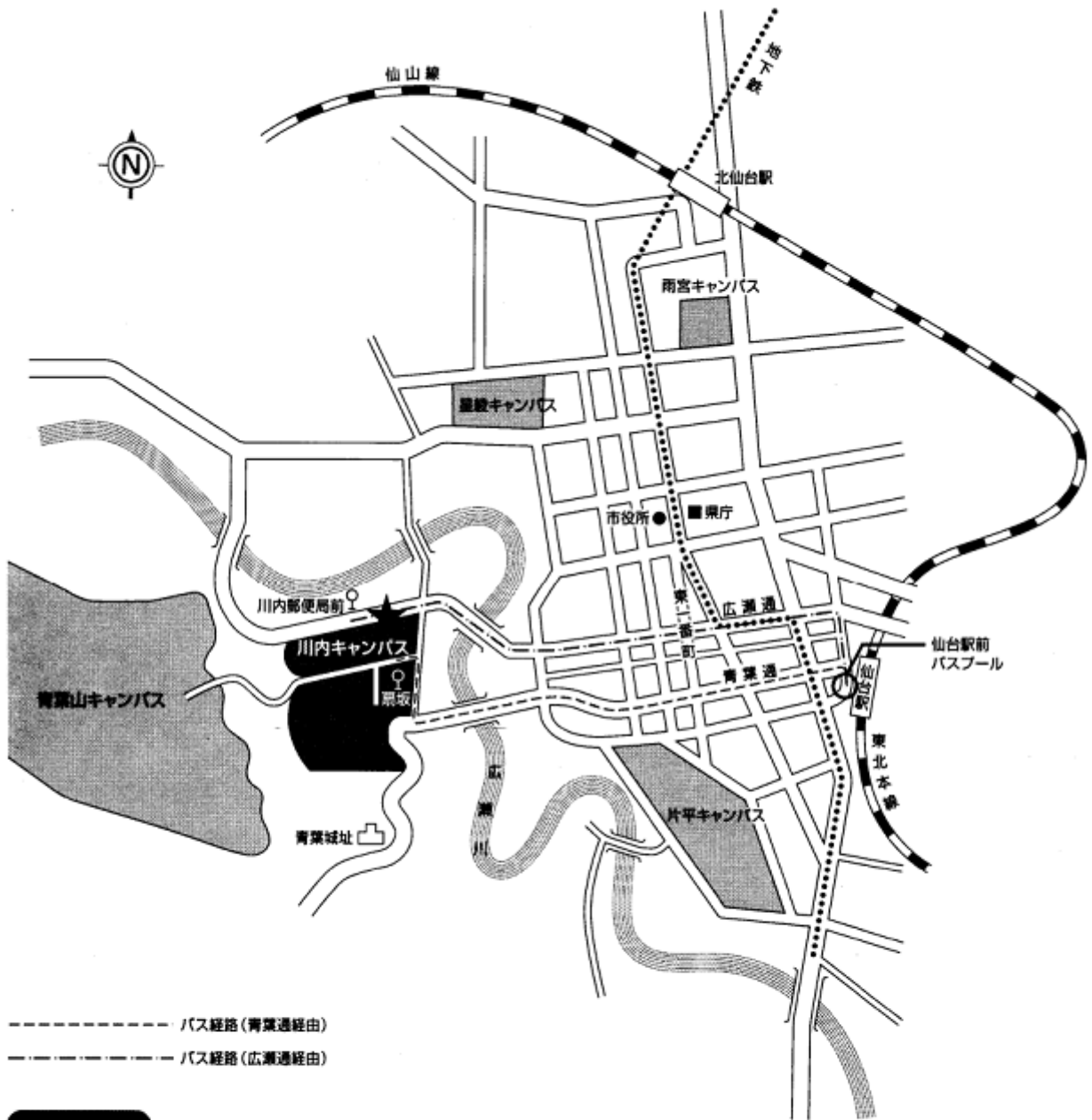
行き先	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
広瀬通経由 仙台駅	47	03 04 27	31													
青葉通経由 仙台駅	06 23 36 56 56	06 16 18 26 34 39 54 56	14 15 34 36 54 56	24 31 44 56	04 24 31 44 56	04 24 31 44 56	04 24 31 44 56	04 24 31 44 56	04 24 31 44 56	04 14 24 31 34 44 54 56	04 14 24 31 33 44 54 56	04 06 14 24 33 44 54 54	02 09 30 39 44 54	00 09 30 39 44 54	09 39 53	

### 川内郵便局前時刻表（仙台駅方面）

行き先	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
広瀬通駅経由 仙台駅	09	01	02	00	00	02	02	02	02	04	04	04	02	20	20
	19	09	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	20	50	50
	29	19	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	40		
	39	29													
	49	44													

仙台市交通局ホームページ (<http://www.kotsu.city.sendai.jp/>) より抜粋

# 大会会場への交通案内



## アクセス

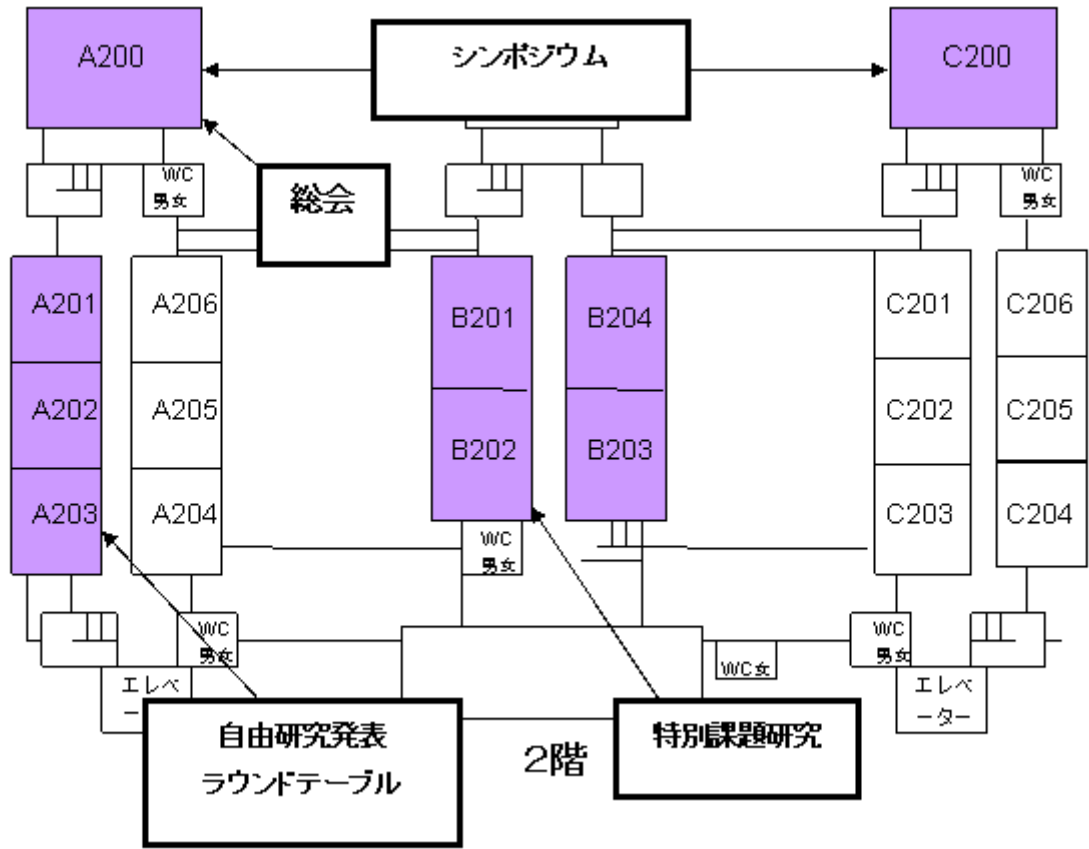
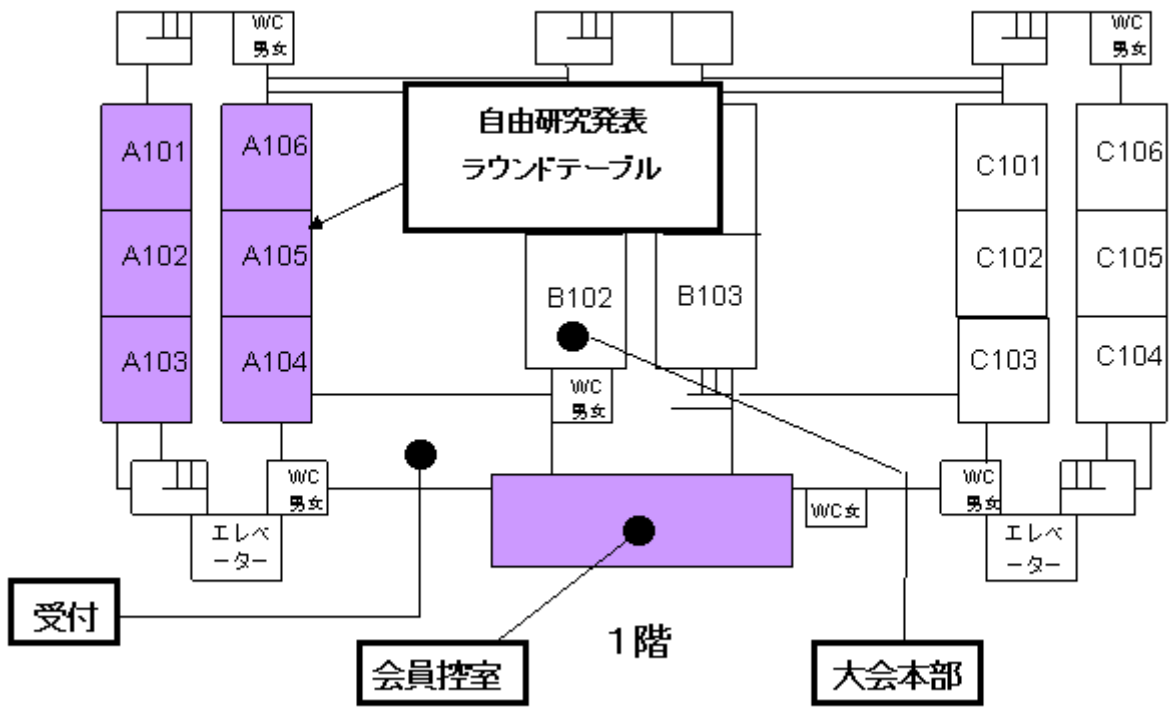
### 仙台駅前バスプール発

- |                |       |                  |
|----------------|-------|------------------|
| 青葉城址循環 (青葉通経由) | のりば ⑨ | } 「扇坂」下車徒歩3分     |
| 宮教大行           | のりば ⑨ |                  |
| 青葉台行           | のりば ⑨ |                  |
| 広瀬通経由交通公園行     | のりば ⑩ | — 「川内郵便局前」下車徒歩1分 |

大会会場



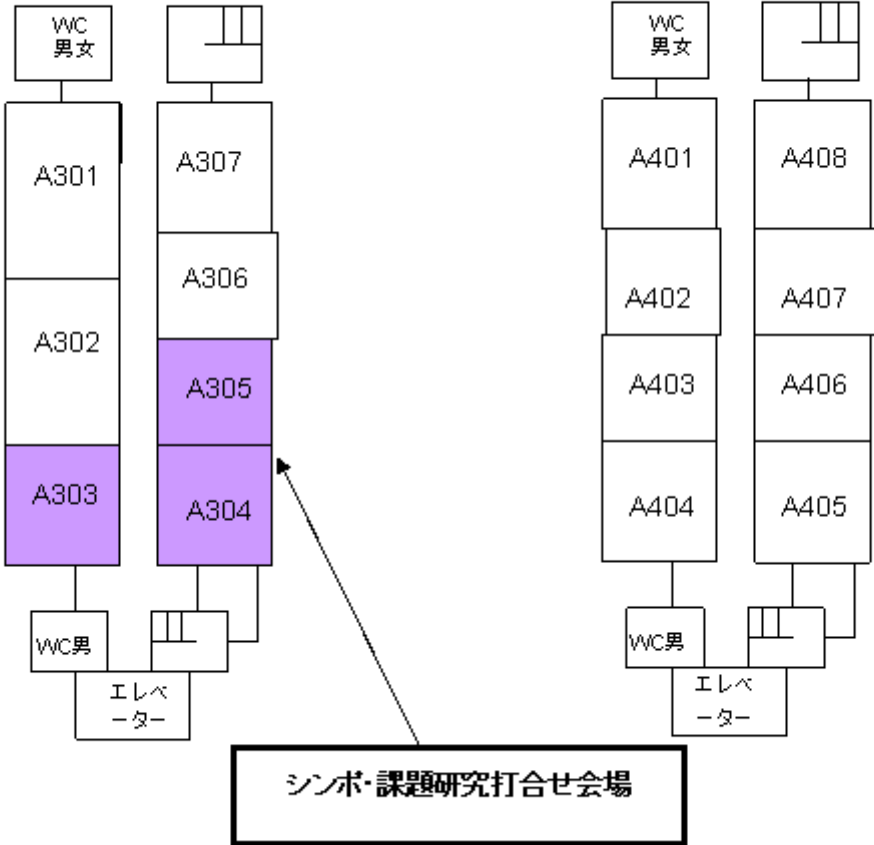




シンポ・課題研究打合せ会場

A棟3階

A棟4階



## 大会日程・会場一覧

<u>8月24日(木)</u>	
<b>自由研究発表 I (9:30~12:00)</b>	
部会	<b>教室</b>
1-教育思想・哲学 A	A101
2-道徳・宗教教育	A102
3-教育史 A	A103
4-教育行財政・教育法 A	A104
5-学校制度・経営	A105
6-比較・国際教育	A106
7-教科教育	A201
8-発達と教育	A203
9-社会教育・生涯学習	A204
昼食	
	<b>教室</b>
<b>総会 (13:00~14:00)</b>	A 200
<b>公開シンポジウム (14:15~17:15)</b>	
1. <u>ITの時代における教育学</u>	C200
2. <u>公共政策としての教育政策： 新しいパラダイムの構築</u>	A200
<b>懇親会 (17:45~19:45)</b>	
会場：川内北キャンパス厚生会館	

<u>8月25日(金)</u>	
<b>自由研究発表 II (9:30~12:00)</b>	
部会	<b>教室</b>
1-教育思想・哲学 B	A101
2-教育史 B	A102
3-教育行財政・教育法 B	A103
4-教育方法	A104
5-中等教育	A105
6-高等教育	A106
7-教師教育	A201
8-教育と社会	A203
昼食	
	<b>教室</b>
<b>特別課題研究 (13:00~15:30)</b>	
1. <u>教育改革の国際比較</u> ー生涯学習との関連においてー	B201
2. <u>プロフェッションとしての 教員養成に関する総合的研究</u>	B202
3. <u>変容する青年期に関する総合的研究</u>	B203
<b>ラウンドテーブル (16:00~18:00)</b>	
1. <u>21世紀における『地上の迷宮の意義』</u>	A103
2. <u>梅根教育学からみる総合学習のゆくえ</u> ー教育課程づくりの到達点と課題	A104
3. <u>教育基本法改正をめぐって</u>	A101
4. <u>日本の授業研究の伝統</u>	A102
5. <u>成人学習機会の供給主体の多様化と 指定管理者制度</u>	

		6. <a href="#">1960-70年代の特別ニーズ教育</a> ・ 特別教育に関する英米の比較検討	A105
		7. <a href="#">学校運営の公私協働と ネットワーク化に関する国際比較</a>	A106
		8. <a href="#">学校における教育実践を支える 校内研究・研修システムのあり方</a> —教育課程経営の視点からの検討—	A201
			A203

総会 8月24日(木) 13:00～14:00 A棟A200教室

総会議事次第

- I 議長団選出
- II 東北大学理事挨拶
- III 日本教育学会第65回大会実行委員長挨拶
- IV 日本教育学会会長挨拶
- V 報告事項
  - 1 一般会務
  - 2 機関誌編集委員会
  - 3 特別課題研究委員会
  - 4 地区研究報告
  - 5 個人情報保護と利用に関する委員会
  - 6 教育基本法改正問題に関する教育学関連15学会の取り組み
  - 7 その他
- VI 審議事項
  - 1 社団法人日本教育学会の設立および定款の制定
  - 2 社団法人日本教育学会運営規則の制定
  - 3 2005年度決算
  - 4 2006年度4～6月期暫定予算ならびに決算
  - 5 2005・2006年度4～6月期会計監査報告
  - 6 2006年度予算
  - 7 第66回大会開催校
  - 8 その他
- VII その他

1日目

8月24日(木)

自由研究発表 I (9:30-12:00)

- 1 教育思想・哲学 A
- 2 道徳・宗教教育
- 3 教育史 A
- 4 教育行財政・教育法 A
- 5 学校制度・経営
- 6 比較・国際教育
- 7 教科教育
- 8 発達と教育
- 9 社会教育・生涯学習

総会 (13:00-14:00)

公開シンポジウム (14:15-17:15)

- I ITの時代における教育学
- II 公共政策としての教育政策

懇親会 (17:45-19:45)

2日目

8月25日(金)

自由研究発表Ⅱ (9:30-12:00)

- 1 教育思想・哲学B
- 2 教育史B
- 3 教育行財政・教育法B
- 4 教育方法
- 5 中等教育
- 6 高等教育
- 7 教師教育
- 8 教育と社会

特別課題研究 (13:00-15:30)

- I 教育改革の国際比較 ―生涯学習との関連において―
- II プロフェッションとしての教員養成に関する総合的研究
- III 変容する青年期に関する総合的研究

ラウンドテーブル (16:00-18:00)



特別課題研究 I (8月25日)

13:00～15:30 B棟 B201 教室

## 教育改革の国際比較

### －生涯学習との関連において－

提案者：末本 誠（神戸大学）：フランス

藤田 晃之（筑波大学）：アメリカ

牧野 篤（名古屋大学）：中国・台湾

司会者：上杉 孝實（畿央大学） 大桃 敏行（東北大学）

#### 〈趣旨〉

この特別課題研究は、3年計画で一昨年度に発足した。日本でドラスティックに進行している教育改革を相対化し、反省的・批判的に検討する前提として、国際比較を行うことを課題としている。東北ブロックと関西ブロックに分かれて研究を進めているが、今年度の大会では「生涯学習と教育改革」を共通のテーマとして検討を行う。生涯教育が教育改革のアイデアとしてユネスコで提起されてから40年が経過し、日本では、「学歴社会」から「学習社会」へといったスローガンの下、生涯学習推進政策が展開されてきたが、各国でも、それぞれの教育改革と連動して生涯学習がクローズアップされている。その背景には、産業構造の変動、技術革新、人生周期の変化などがあり、また人々間の教育格差の是正の課題がある。国際的に共通して見られることと、国による独自性を明らかにして、生涯学習が教育改革に持つ意味を追究する。

特別課題研究Ⅱ（8月25日）

13:00～15:30 B棟 B202 教室

プロフェッションとしての  
教員養成に関する総合的研究

13:00～15:30 B棟 B202 教室

プロフェッションとしての  
教員養成に関する総合的研究

提案者：佐藤 学（東京大学）「教職資格の高度化をめぐる情勢と諸課題」

秋田 喜代美（東京大学）「教員養成高度化の課題とデザイン」

牛渡 淳（仙台白百合女子大学）「教員養成の高度化とカリキュラム開発の課題」

司会者：山口 和孝（埼玉大学）

〈趣旨〉

中央教育審議会において、高度職業人養成の課題として教師の専門職大学院における養成が政策的にうちだされ、教員養成系大学・学部は、その政策動向に注目している。戦後の専門職養成システムを転換し、教員養成を高度化しようとする構想は十分に検討されるべきだが、展開している現状は、学問研究と教育を分離させたスキルの伝達にシフトしている傾向を否定できない。教師のプロフェッショナリズムをどう確立するかは制度設計は、教職のプロフェッショナリズムに関する総合的な研究の上に構想されねばならない。本研究は、政策動向もにらみながら、①高度な職業に関するプロフェッショナリズムの研究、②教職のプロフェッショナリズム理論の構築、③教員養成専門職大学院の制度検討を行おうとするものである。教員養成高度化の基本方向について考察を進める。

特別課題研究Ⅲ（8月25日）

13:00～15:30 B棟B203教室

## 変容する青年期に関する総合的研究

13:00～15:30 B棟B203教室

## 変容する青年期に関する総合的研究

提案者：乾 彰 夫（東京都立大学）「青年期の変容と研究・調査の課題」

藤 田 武 志（上越教育大学）「ニート問題に関する実施調査から」

佐 野 正 彦（相愛大学）「イギリス Youth Cohort Study と変容把握の方法論」

司会者：平 塚 眞 樹（法政大学）

### 〈趣旨〉

本課題研究は、学校から仕事・社会への移行過程の変容を中心に、青年期のこれまでのあり方が大きく変化し、また青年期教育のあり方が大きく問われている中で、(1)移行過程変容の実態を中・長期的な展望で基礎的に明らかにすること、(2)キャリア教育、若者の自立支援・就労支援等この間学校の内外で広がりつつある政策・実践について教育学的視点から検討・評価を加えること、を課題として、2005年度に発足した。初年度末である今回は、今日求められている青年期調査研究の課題について、国内外の諸調査などもふまえつつ、会員諸氏とともに検討したい。

公開シンポジウム I (8月24日)

14:15~17:15 C棟 C200 教室

## ITの時代における教育学

提案者：松 下 良 平 (金沢大学)

矢 野 智 司 (京都大学)

渡 部 信 一 (東北大学)

司会者：今 井 康 雄 (東京大学)

加 藤 守 通 (東北大学)

### 〈趣旨〉

ITの急速な進展は、ヴァーチャルとリアルに関する従来の区別を揺り動かしている。インターネットにおける取引が世界の経済を現実に関わり、掲示板での風説が国際政治に影響を与える。現実の出会いや会話以上に、ケータイやネットが人々を結びつけ、そこでのさりげない一言やいたずららが、最悪の場合、人命に関わる事件に発展する。いまや、ヴァーチャルなものこそがわれわれにとってもっともリアルなものになりつつある。いや、おそらくすでに、なっている。ひるがえって、教育学の世界を顧みると、教育学は、その誕生以来、「自然」や「現実」を土台として成り立っていた。ルソーにとって、「自然」は教育が拠って立つべき基準であり、それから逸脱した「人為」が糾弾された。ペスタロッチは、技術としての教育の根底に「自然」を置いた。そして、印刷術や饒舌といった過度の人為を斥けた。ヘルバルト教育学もまた、彼の「現実」概念を基盤にして成り立っている。教育学は、その根底に「自然」や「現実」を置くことで、恣意的な人為となることから免れていたのである。しかし、このような前提はいまやITの普及によって根底から揺り動かされた。リアルとヴァーチャルをきれいに選り分けて、現実を理解するための単なる道具としてインターネットを活用したり、自然を教育の場に取り入れたりすることは、もはや時代遅れの処方なのである。とはいえ、人為的なものへの現実の解消は、教育を歯止めのきかない操作性の圏域へと押しやることにならないか。その場合、教育はどのようにして正当化されるのだろうか。ITの発展は、教育学にとって単なる都合の良い道具を提供しているだけではない、それは教育学に原理的な反省を迫るものなのである。ヘルバルトの『一般教育学』刊行から200年の本年に、教育学の新たな課題と可能性について考えてみたい。

公開シンポジウムⅡ（8月24日）

14:15～17:15 A棟 A200 教室

公共政策としての教育政策：

新しいパラダイムの構築

14:15～17:15 A棟 A200 教室

公共政策としての教育政策：

新しいパラダイムの構築

提案者：浅野史郎（慶應義塾大学・前宮城県知事）

藤田英典（国際基督教大学・中央教育審議会委員）

森田朗（東京大学・前地方分権推進委員会委員）

司会者：荻原克男（上越教育大学）

宮腰英一（東北大学）

#### 〈趣旨〉

生涯学習の流れの中で地方教育行政は、学校教育や社会教育の分野に止まらず、隣接する福祉・労働・医療・社会などの行政分野を包括する総合的概念のもとで再編への構想が議論されている。この再編構想は、首長部局との連携による教育行政の総合行政化を進め、他部局の教育行政への発言や関与を強めると共にその在り方の見直しをも迫っており、新たなフレームワークの構築を求めている。既にイギリスの地方当局は、子どもや青年の健康、安全、娯楽・教育、地域貢献、職業など公共サービスの総合化を図り、教師、医者、看護師、ソーシャルワーカー、ユースワーカーなど関係者の部局間協同による福利・厚生・教育の組織へと再編を進めつつある。ここでは従来の教育政策・教育行政の単独で固有のパラダイムは最早喪失している。中央から地方への権限委譲や市町村合併の推進、さらに今後

想定される道州制への移行や、NPM（新公共経営）手法の一層の進展に伴い、教育政策・教育行政の新たなパラダイムが構想されなければならない。

公共政策の一分野としての教育政策は、これから如何に構築されるべきか。このシンポジウムでは、中央における内閣府の教育行政への関与の拡大や脱文教行政化の進行にも着目しながら、公共政策における教育政策・教育行政の意義を再評価し、かつこれからの在り方を考えたい。そこで、本シンポジウムにおいては、福祉政策、地方行政、教育行政、教育政策の各分野の専門家から提案を頂き、教育政策・教育行政に関する新たなパラダイムの構築の可能性を探りたい。

ラウンドテーブル① (8月25日)

16:00～18:00 A棟 A103 教室

## 21世紀における『地上の迷宮』の意義

企画者：太田光一（会津大学）

提案者：相馬伸一（広島修道大学）

「『地上の迷宮と心の楽園』再考」

井ノ口淳三（追手門学院大学）

「『地上の迷宮と魂の楽園』における挿絵の意義」

司会者：貴島正秋（神戸芸術工科大学）

### 〈趣旨〉

コメニウスの31歳の時の作品である『地上の迷宮』（1623年執筆、1631年出版）は、チェコ文学史上の傑作と言われ、トマス・モアの『ユートピア』にも匹敵する風刺的な作品である。故藤田輝夫は、生前この著作をチェコ語原典から翻訳していたが、待望の出版が今年ようやく実現する運びとなった。この機会に『地上の迷宮』をさまざまな視点から考察し、その作業を通して21世紀におけるコメニウス研究の課題と方向について検討したい。

まだこの作品を読んでいない方にもぜひ参加していただき、作品のおもしろさに触れていただきたいと願っている。参加された方全員に科学研究費補助金による報告書『初期コメニウス思想の総合的研究—迷宮からの脱出—』（研究代表者：貴島正秋）を進呈する。

ラウンドテーブル② (8月25日)

16:00～18:00 A棟 A104 教室

## 梅根教育学からみる総合学習のゆくえ

### －教育課程づくりの到達点と課題

企画者：田村真広（日本社会事業大学）

提案者：田村真広（日本社会事業大学）

「梅根悟にみる総合学習の系譜－何が否定され、何が継承されたのか」

加藤聡一（武蔵大学）

「梅根三層構造論から現在の総合学習の到達点を読む」

司会者：古沢常雄（法政大学）

#### 〈趣旨〉

梅根悟（1903-1980年）の生誕100年を記念して、『梅根悟教育著作選集』全8巻（明治図書1977年）を読み直す研究会を3年前にはじめた。それは、日本の教育学の歴史や土台を探究することになり、現在の教育学を問い直す機会となった。より多くの研究者・教育実践者とその機会を共有しようとはじめたラウンドテーブルも今回で3回目になる。

1年目の「梅根教育学の再評価と教育学のこれから」、昨年の「梅根悟という生き方－教育現実をつくり出す研究」というテーマを引き継ぎ、今年は「梅根教育学からみる総合学習のゆくえ－教育課程づくりの到達点と課題」をテーマに、梅根の教育課程論を再評価し、現状をふまえながらさらに未来に向けて、教育課程づくりという教育現実をつくり出していく結節点の場としたい。

なお、この企画はこれで一区切りとし、関心をもたれた研究者それぞれの研究、実践者のそれぞれの実践の進展に期待したい。



ラウンドテーブル③ (8月25日)

16:00～18:00 A棟 A101 教室

## 教育基本法改正をめぐって

16:00～18:00 A棟 A101 教室

## 教育基本法改正をめぐって

企画者：三上 昭彦 (明治大学) 山口 和孝 (埼玉大学) 中嶋 哲彦 (名古屋大学)

勝野 正章 (東京大学) 中田康彦 (一橋大学)

提案者：三上 昭彦 (明治大学) 中嶋 哲彦 (名古屋大学) 勝野 正章 (東京大学)

司会者：山口 和孝 (埼玉大学) 中田 康彦 (一橋大学)

### 〈趣旨〉

すでに新聞等の報道にあるように、2006年4月28日に教育基本法改正案は閣議決定され、5月11日には衆議院に「教育基本法改正案に関する特別委員会(森山真弓委員長)」が設置され、ついに本格的に国会において教育基本法改正をめぐると論議が始まってしまった。

本原稿を執筆しているのが5月17日であり、このラウンドテーブルが開かれる当日には、改正案が成立しているか、はたまた継続審議になっているか、予測がつかない状況である。

よって、内容については、状況によって大幅に変更されることも予想され、確定的なテーマを提出することができない。教育基本法改正案の逐条批判を中心にしながら、分権改革、学校経営など今日の教育改革をめぐると問題とも関連させながらの3本の報告を基にして、会員による全国各地での教育基本法をめぐると状況の意見交流と教育基本法を生かすための研究課題を明らかにしたいと考えている。

教育基本法改正問題は、教育研究全体に関わる重要な課題であり、会員が総力を挙げて取り組まなければならない。多くの会員のご参加をお待ちしている。

ラウンドテーブル④ (8月25日)

16:00～18:00 A棟 A102 教室

## 日本の授業研究の伝統

16:00～18:00 A棟 A102 教室

## 日本の授業研究の伝統

企画者：本間 明 信 (宮城教育大学)

提案者：本間 明 信 (宮城教育大学) 「『授業』という思想」

吉村 敏 之 (宮城教育大学) 「教師による授業研究 —玉村小学校研究誌『草原』」

司会者：本間 明 信 (宮城教育大学)

### 〈趣旨〉

日本の学校における「授業」を核とした、教師たちの校内研究（研修）は、教育の質を保障するものである。日本の教師たちの実践の中でも、1930年代から1960年代前半まで積み重ねられた、群馬県玉村小学校、芝根小学校、島小学校の授業研究は、教育史の上でも大きな財産である。

近年、日本の教師たちの学校における授業研究の質の高さが、海外の研究者に注目されている。欧米のモデルを追いかけている日本の研究者に反省を迫る。

日本の教師たち（教育学者ではない）による授業研究のもつ可能性を、いくつかの事例をもとに検討したい。

ラウンドテーブル⑤ (8月25日)

16:00～18:00 A棟 A105 教室

## 成人学習機会の供給主体の多様化と 指定管理者制度

16:00～18:00 A棟 A105 教室

## 成人学習機会の供給主体の多様化と 指定管理者制度

企画者：大桃 敏行（東北大学）

提案者：大桃 敏行（東北大学）「成人学習機会の供給主体の多様化」

石井山 竜平（東北大学）「指定管理者制度と成人学習施策」

背戸 博史（琉球大学）「指定管理者制度導入の事例報告」

司会者：藤井佐知子（宇都宮大学）

### 〈趣旨〉

2003年9月、地方自治法の一部改正により、従来の管理委託制度に代わる指定管理者制度が導入された。多様化する住民のニーズに対し、より効果的に、より効率的に対応するための制度であり、民間の活力を広く活用することで、住民サービスの向上を図りつつ、行政に係る経費の削減をなし、住民自身による自治の契機を促すことを目的とした制度、それが指定管理者制度である。

学校については、現在のところ指定管理者制度の導入はなされていない。しかし、総合行政をうたいつつ開始され、自治体出資法人などによる多様な主体によって展開されてきた成人学習機会の供給に際しては、いくつかの地方公共団体において既にその導入がなされており、今後ますます増加することが見込まれる。

本ラウンドテーブルでは、成人学習機会の供給主体の多様化が進むなかで、本格的に導入されようとしている指定管理者制度の意義と課題を確認し、制度導入をめぐる公概念の変容や公共サービスの多様化、そこで提供される学習機会の実態や改めて求められる専門性の担保等について議論したい。

ラウンドテーブル⑥ (8月25日)

16:00～18:00 A棟 A106 教室

1960－70年代の特別ニーズ教育・特別教育に関する  
英米の比較検討

16:00～18:00 A棟 A106 教室

1960－70年代の特別ニーズ教育・特別教育に関する  
英米の比較検討

企画者：千賀 愛（北海道教育大学岩見沢校）

提案者：新井 英靖（茨城大学） 千賀 愛（北海道教育大学岩見沢校）

司会者：河合 隆平（金沢大学）

〈趣旨〉

このラウンドテーブルでは、1960－70年代のイギリスの特別ニーズ教育とアメリカの特別教育の議論や実践をとりあげ、当時の特別ニーズ概念が学校教育における機会の不平等や文化的マイノリティの問題とどのように関連していたのか、通常教育に対しどのような問題提起を行っていたのかを比較検討する。

さらに1980年代後半以降に提起された障害や環境等による困難・ニーズおよび文化的・言語的マイノリティなどの様々な子どもに対する十分な教育機会を担保する「インクルージョン」の概念と、英米1960年代－70年代の「統合教育」はどのように連続し、また断絶しているのかについても議論したい。

ラウンドテーブル⑦ (8月25日)

16:00～18:00 A棟 A201 教室

学校運営の公私協働とネットワーク化に関する  
国際比較研究

16:00～18:00 A棟 A201 教室

学校運営の公私協働とネットワーク化に関する  
国際比較研究

企画者：宮腰 英一（東北大学）

提案者：中島 千恵（京都文教短期大学） 澤野 由紀子（聖心女子大学） 吉原 那子（高崎経済大学）

指定討論者：藤田 晃之（筑波大学）

司会者：宮腰 英一（東北大学）

〈趣旨〉

内閣府の「規制改革・民間開放推進会議」は、学校選択の普及促進、教育バウチャーの導入、教育委員会制度の見直しを重要事項として教育の規制改革を一層進めようとしている。ここでは顧客としての児童生徒や保護者の期待・意見を最優先する一方で、教師の専門性や教育委員会への不信を表している。推進の手法としては、公教育政策への市場メカニズムの活用、顧客サイドのニーズを反映したマネジメント、サービス供給の効率化、成果の評価といったNPM手法が多用されている。

こうした文脈で生まれた公立学校における「学校を基盤とする経営」(school-based management)の形態は、各学校が児童生徒のニーズに見合った独自のカリキュラムを作成し、かつ他の学校や私的セクター・ボランティアセクターと連携協力しながら、独自の責任で学校改善をはかる道を探求するものである。その実質化のために、各学校に独自の資産保有、独自の教職員雇用、独自の入学者選抜など可能な限りの裁量権を保障する自主的・自律的な学校運営を進めている。私立(営)学校の管理形態に限りなく近づきつつある中で、イギリスにおいては公立学校の公共性を担保する施策として、コミュニティを基盤に公私協働を進めると共に学校を群として支援するネットワークシステムづくりが始まっている。

本ラウンドテーブルでは、アメリカ、ロシア、イギリスを対象に、①中央・地方から学校への権限移譲の実態、②学校と他の公的セクター及び私的セクターとの協働の形態を分析しながら、学校運営の公私協働とネットワーク化による地域支援システム構築の可能性を探りたい。

ラウンドテーブル⑧ (8月25日)

16:00～18:00 A棟 A203 教室

教育実践を支え、教師を育てる

校内研究・研修システムの構築

—カリキュラム経営の視点からの検討—

16:00～18:00 A棟 A203 教室

教育実践を支え、教師を育てる

校内研究・研修システムの構築

—カリキュラム経営の視点からの検討—

企画者：小泉 祥一（東北大学）

提案者：小泉 祥一（東北大学） 「カリキュラム経営としての校内研究・研修」

堀越 清治（仙台市立田子小学校・校長）

「授業研究を中心とした校内研究のシステム化の試み

—仙台市立田子小学校の場合—

菊地 真貴子（栃木県那須塩原市立箒根中学校）

「大学との連携による授業研究を中心とした校内研究の試み

—栃木県那須塩原市立箒根中学校の場合—

牛渡 淳（仙台白百合女子大学）

「教師の研修の意義と校内研究・研修システム」

司会者：本 図 愛 美（宮城教育大学）

## 〈趣旨〉

地方分権時代のこれからの学校は、カリキュラムと授業を中心とした学校経営、すなわち、カリキュラム経営を中心とする学校経営をいかに進めていくか、が大きな課題となっています。

そのために、本ラウンドテーブルでは、授業研究を中心とした校内研究に取り組み、貴重な成果をあげている学校の実践事例について報告します。さらに、カリキュラム経営論および教員研修論の視点から提言し、教育実践をサポートし、教師を育てる校内研究・研修システムについて研究交流を深めたいと思います。

# 懇 親 会

17:45～19:45

川内北キャンパス厚生会館

# 懇 親 会

17:45～19:45

川内北キャンパス厚生会館

懇親会は、川内北キャンパス厚生会館にて開催いたします。厚生会館へは、案内掲示または学生誘導係の誘導にしたがってご移動下さい。

食べ物・飲み物を各種揃えて、会員の皆様の多数のご参加をお待ちしております。